

死体腎移植における選択肢提示の諸問題に関する研究

研究分担者 加藤 庸子 藤田医科大学ばんだね病院脳神経外科 教授
研究協力者 小野 元 聖マリアンナ医科大学脳神経外科 准教授

研究要旨：

研究要旨：改正臓器移植法の施行に伴い脳死下臓器提供数は増加したが、臓器提供全体数は減少しておりその原因は心停止下臓器提供の減少にある。そのため現在でも我が国の移植待機数と提供数のアンバランスはさらに増加している。心停止下臓器提供数は 2019 年度において脳死下臓器提供の三分の一程度であり、救急医療現場における選択肢提示やドナー管理負担や日常業務負担に対して本研究では臓器提供における負担軽減、家族へのグリーフケアや協働、特に終末期医療の選択に対するサポートや説明と同意等に対応することにより心停止下臓器提供数と増加させ、特に待機数、待機日数の多い腎臓、膵臓における移植希望患者への提供に寄与する。また、心停止下臓器提供へのガイドラインについては終末期医療からのアプローチを継続する。

A. 研究目的

臓器提供可能医療機関における負担軽減は必要不可欠である。これまで課題とされる負担にはインセンティブや脳死判定時間や事務的処理等が注目されるが、より大きな課題は入院後の家族への説明や承諾に至るまでの過程における臓器提供へ対応が通常業務と異なることにある。本研究では特に心停止下臓器提供の承諾における課題つまり家族に対する選択肢提示に対する解決を目的とする。

B. 研究方法

臓器提供可能施設における臓器提供への選択肢提示と家族の希望を合わせて終末期対応の現状を勉強会の形で検証した。

（倫理面への配慮）

個人情報の扱いについては十分考慮しPCにおける情報はPWによるロックをかけ、書類については鍵付きロッカーでの管理を行うなどの対応により厳重に管理する。

C. 研究結果

2019年7月5日、藤田医科大学ばんだね病院において勉強会（第3回目）を開催した。座長：加藤庸子（ばんだね病院脳神経外科）、講演者：名取

良弘（飯塚病院脳神経外科）、岩瀬正顕（関西医科大学総合医療センター脳神経外科）、剣持敬（藤田医科大学移植・再生医学）、奥寺敬（富山大学救急科）、小野元（聖マリアンナ医科大学東横病院脳神経外科）、谷口弘晃（岐阜県立多治見病院小児科）、そして、愛知県下の多くの提供可能病院、多職種の医療者の参加により開催した。

内容；「脳死臓器移植、ここがポイント！」として選択肢提示についての議論を行った。全国に地域によりそれぞれの選択肢提示のやり方がある。また、小児の臓器提供症例については成人例に比して家族へのケア、周囲職員への対応の違いがある。

D. 考察

福岡県における対応は各医療機関においても差があり院内体制整備に対する対応の必要性が再認識されたが、飯塚病院では行政のパンフレットで対応できている（名取）。また関西医科大学総合医療センター、聖マリアンナ医科大学では主治医が選択肢提示を行い、臓器提供への機会があることを患者家族に伝えていたとのことであった（岩瀬、小野）奥寺先生から以前の信州大学での臓器提供事例についてコメントがあった。最後に小児の臓器提供では成人例とは異なり負担が多く、特に家族への説明やスタッフの理解について成人例よりも負担が大きいとの意見があった。

E. 結論

各医療機関において臓器提供への対応はそれぞれであるが、課題の中心は救急現場における通常医療行為や説明と臓器提供に対する医療行為や説明のギャップに医療スタッフが未だに困惑している点にある。今後、国民が通常医療と同じように、提供の機会が選択でき、終末期医療の議論の中で医療者と共に進めることが、より重要であると思われる。さらに終末期医療においては、医療者は1つの仕事として臓器提供に関する機会を家族と共に得る必要性が大きい。

F. 健康危険情報

なし

G. 研究発表

1. 論文発表

日本脳死・脳蘇生学会雑誌に投稿予定あり

2. 学会発表

- ・小野元, 高砂浩史, 田中雄一郎, 加藤庸子.
心停止下臓器提供における医療現場負担の抽出と検討. 一般社団法人日本脳神経外科学会 第78回学術総会, 2019.
- ・小野元, 田中雄一郎, 加藤庸子, 横田裕行.
終末期医療現場の負担の比較検討
～脳死下提供と心停止下提供について～.
第55回日本移植学会総会, 2019.

H. 知的財産権の出願・登録状況

(予定を含む。)

1. 特許取得

なし

2. 実用新案登録

なし

3. その他

なし